

建築文化賞

景観に配慮した建築物

海辺に甦った海鼠壁のある家

蔵替え (鴨川・質蔵のリフォーム)

建築主：石井 悦子

設計：野口修アーキテクツアトリエ

施工：ホームドクターハクモン株式会社

所在地：鴨川市



路地と蔵

かつて房州の海沿いの街並みによくみかけた海鼠壁が、いつの間にか消えて久しい。その残り少ない海鼠壁を側壁に残す築後100年の質蔵が、若い建築家の設計で建築面積85.5㎡、延床135.51㎡の2階作りの現代住居に甦った。

この建物は老朽化が進み、本来なら取り壊し対象であった。しかし廃棄物を少くして環境負荷を抑え、さらに建物が残す伝統的価値を、街並み景観や室内空間に生かすべきであるという施主と設計者の基本的合意があり、さらにその実現への努力成果として魅力的住居が再生された。

外装は瓦ぶき屋根と質蔵横の路地側海鼠壁を残し、県道沿いの正面は内部の採光と、目隠しをかねた杉材の縦格子で被い、伝統とモダンの融和が試みられた。

改築木材は千葉産の檜や杉材、地元の大工さんの協力もあって、内装は伝統的な小屋組みを見せ、高い天井と骨太の空間づくりに生かされた。さらに路地側の玄関正

面の壁面には、この家の歴史を語る質蔵罪が埋め込まれ、古い建具や家具も随所に再利用して、家を語り継ぐ住空間が演出されている。

近年、各地に伝統的街並み保存や古民家再生への取り組みが進むが、生活様式や設備工法の変化、さらには環境保全など「言うは易し行うは難し」の課題も多い。

大型建築に見る先端技術開発が進む一方で、施主、設計者、職人ともども伝統再考と建築再生工法にむけた誠実な努力は、誰にも理解できる身近な建築文化醸成への貴重な貢献といえよう。(野口 瑠璃)



県道側外観



雪見障子と坪庭

(撮影/野口修)